

いもの 鋳物づくりのムラ

かなやみなみ
金屋南遺跡

はじめに

金屋南遺跡は、安田城の北東約1kmの井田川の西岸、呉羽丘陵の東の麓（図1）に位置する縄文時代から近世までの集落・生産遺跡です。発掘調査の結果から遺跡の主な時代は平安時代（9世紀）から戦国時代（16世紀）であり、最盛期は室町時代（14世紀）から戦国時代（16世紀）に迎えたことがわかっています。

本遺跡では、最盛期の頃の集落を区画する溝や建物跡、墓域などが見つかり、同時に一般の集落とは異なり、金属を溶かすための溶解炉や金属生産の際に排出された廃棄物をすてる廃滓場、鋳型、取瓶など鋳物生産に関するものが多く出土しました。このことから最盛期の金屋南遺跡は鋳物をつくっていたムラであったことがわかりました。

鋳物づくりのムラ

鋳物づくりは、

- ①製品の鋳型の製作
- ②材料となる鉄や銅など地金の溶解
(写真1)

- ③溶けた金属を流し込む鋳込み作業

という大きく3つの工程により製作されます。どの工程にも非常に高い技量と知識が要求され、鋳物を作る職人は鋳物師と呼ばれていました。鋳物師にとってこのムラは、西の呉羽丘陵から鋳型に使用する良質の粘土や燃料にする木材を調達できるほか、井田川からは作業に必要な水や砂を得られ、材料となる重い地金や出来あがった製品を船で運搬できるという便利な環境でした。

このような立地もあって、鋳物づくりのムラは室町時代に最盛期を迎えました。ムラ東部の川べりの廃滓場では総重量6.3tもの廃棄物が投棄されていたほか、南東部では井戸が集中し、50~80㎡の大型の建物や2~30㎡の小型の建物が確認されています。また、村のはずれには共同墓地（土壌墓群）もあ

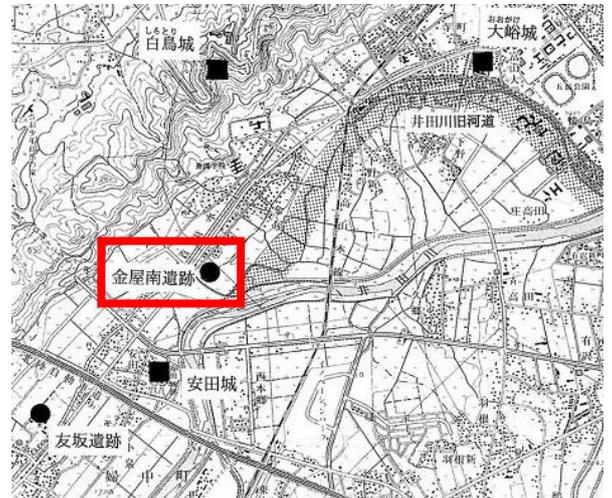


図1 金屋南遺跡の位置

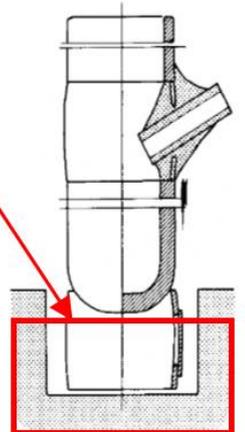
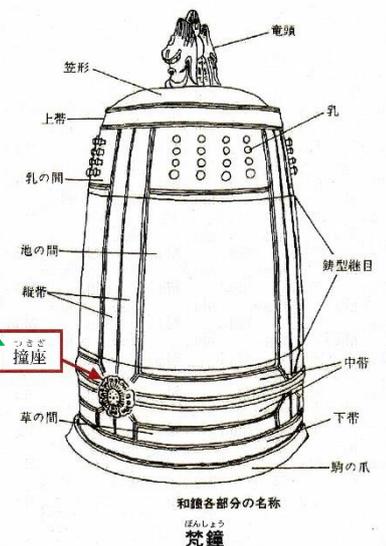


写真1 溶解炉の下部構造検出状況と構造図（1992 五十川を改編）



写真2 梵鐘撞座の鋳型



和鐘各部分の名称
梵鐘
奈良国立文化財研究所 1993『梵鐘実測図集成』より

りました。

出土した遺物には、日常に使用される鉄鍋やその鋳型のほか、受注生産品の梵鐘^{ぼんしょう}（写真2）や仏具の鋳型などがあります。日常品を作る鋳物師のほかに寺からの注文を受けた際に鋳物づくりの先進地、京都などから専門の鋳物師が招かれて製作していたと考えられます。

最盛期を迎えたムラの近くには、臨済宗の崇聖寺（鎌倉時代末～戦国期に廃寺）があったとされ、崇聖寺に関わる梵鐘や仏具はこのムラで製作されたと考えられます。

さまざまな出土品

ムラの東側の川べりでは、提子^{ひさげ}（酒を注ぐ容器（写真3））の中に鏡と太刀の飾り金具^{おさ}が納められた状態で見つかりました。提子は直径19cm、高さ8cmで、釣手^{つりて}には三連の花菱亀甲^{はなびしきっこう}文などの文様が彫られています。また、鏡は秋草や鳥の文様が施されている優品ですが、角釘^{あな}様のもの^{あな}で鏡面に孔が開けられています。これは鏡を廃棄する際のまじないの跡とも考えられます。出土した銅製品は京都産のいわばブランド品ですが、^い鋳つぶしてリサイクルするために持ち込まれたようです。



写真3 提子の出土状況

室町時代のこの遺跡のある金屋地区^{だいごじ}一帯は、京都醍醐寺^{だいごじ}が所有する荘園^{しょうえん}、「御服荘^{ごふくのしょう}」に属していました。「御服金屋」とも呼ばれたこのムラの鋳物生産には、荘園の経営に関わる有力者の関与が推測されます。京都産の銅製品はこうした有力者が入手してムラに持ち込まれたものと考えられます。

鋳物づくりのムラの名残

戦国時代のこの地は、越後の上杉氏と越中の神保氏の戦場となったり、井田川や神通川の洪水などの自然災害に見舞われたりするなど、激動の時代で鋳物づくりは16世紀以降衰退していきました。そのような中で現在も残る「金屋」の地名は、かつて鋳物づくりのムラがあったことの名残といえるでしょう。

ムラの暮らしとその他の出土品

他にも、ムラの大溝からは馬の歯^{うまのば}が出土（写真4）しています。臼歯^{きゅうし}が咬み^かあった状態だったことから、切り落とした馬の頭部を溝の底に置いたと考えられます。牛馬を生贄^{いけにえ}として水神^{みづかみ}に捧げたり、水を汚すことで水神に洗い流させたりする雨乞いの儀式として置かれた可能性があります。



写真4 馬歯出土状況

また、ムラの井戸の石組には逆さまにした漆^{うるし}椀^{わん}が埋め込まれていました。古来より井戸には水神が宿ると信じられており、井戸の構築や廃絶の際には水神へ祈願して、祭祀が行われたと考えられます。

おもな参考文献 富山市教育委員会『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅳ』1999・2003・2006・2007年
富山市日本海文化研究所『富山市日本海文化研究所報』第38～40号 2007・2008年
五十川伸矢「古代・中世の鋳鉄鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告』（46）1992年

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/yasuda/top.htm>

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター